

1 教育目標・努力目標

【教育目標】(蓬田小が目指す子供像)

夢に向かって挑戦し、共に生きる子を目指して
やさしい子
学び合う子
たくましい子

【努力目標】(今年度の目指す子供像)

- ・ 思いやりの心をもって 行動する子
- ・ よく考え みんなで学ぶ子
- ・ 健康や安全について考え 体づくりにはげむ子

2 道徳教育の目標

自分自身をしっかりと見つめ、主体的に判断し行動し、自分を支えてくれる人や社会と共に生きるための基盤としての道徳性を養う。

3 道徳教育推進の柱 (教育目標、経営方針及び学び・心・体の基礎基本づくりを踏まえて)

- (1) 学級経営を全ての教育活動の基盤とし、子供相互の好ましい人間関係はもとより、教師と子供・保護者との信頼関係の構築に努める。
- (2) 物事を自分事として捉え主体的に考え判断し行動できる子供を育むために、道徳教育やキャリア教育の視点に立った教育活動を推進する。
- (3) 「見つめる心」、「思いやる心」、「開かれた心」、「感動する心」を重視しながら、家庭や地域ともに道徳性の育成に努める。

4 道徳教育推進の視点

- (1) 道徳推進教師を中心に、協働指導体制による全教職員が関わる道徳教育
- (2) 道徳科を要とし、各教科等(生活科、総合的な学習)や特別活動との連動による子供が主体的に学ぶ道徳教育
- (3) 子供の実態や発達段階に即した重点的かつ具体的な道徳教育
- (4) 学校や地域の特色ある体験活動を活かした道徳教育
- (5) 家庭や地域との横の連携及び、保育所や中学校との縦の連携等による開かれた道徳教育
- (6) 情報モラルや現代的な課題に対応した道徳教育
- (7) 学級や校内外の環境整備など、道徳性を育む環境づくり
- (8) 子供の変容や成長を共有できる評価

5 道徳科の指導

【道徳科の目標】

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の時間は、上の道徳教育推進の柱、推進の視点を踏まえ以下のことに取り組んでいく。

- (1) 教師と子供、子供相互の温かい信頼関係を基盤におく。
- (2) 内面的に統合された資質としての道徳性を子供が主体的に養うことができるよう工夫する。
- (3) 道徳的諸価値を自分事として理解し、多面的・多角的に考えられるよう工夫する。
- (4) 子供の発達や個に応じた指導、感じ方や考え方を大切にされた指導を工夫する。
- (5) 問題解決的な学習や体験的な活動を活かした指導など、子供が自分との関わりで考えることができるよう指導を工夫する。
- (6) 他の教育活動との関連や発展を吟味しながら、効果的な指導を工夫する。